

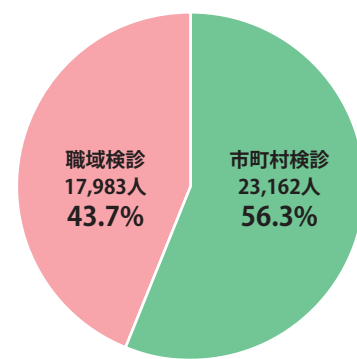
市町村検診と職域検診における 乳がん検診の現状

2016年度に保健事業部（聖隷）で乳がん検診（マンモグラフィ検査）を受診した
40～74歳の41,145人を対象に、市町村検診と職域検診に分類し、現状をまとめました。

事業管理部 保健看護管理室 統計情報課 課長 管理栄養士 土屋 易寿美
監修：聖隷福祉事業団 特別顧問 大内 憲明

乳がん検診受診者数

図1 市町村検診と職域検診の割合



当事業部での乳がん検診は、市町村検診が約6割、職域検診が約4割でした。図1
年齢階級別では職域検診は40～50歳代が多く、市町村検診では60歳代も多くみられました。図2
職域検診では、マンモグラフィに加え、超音波を併用している方も多くみられました。図3

図2 年齢階級別

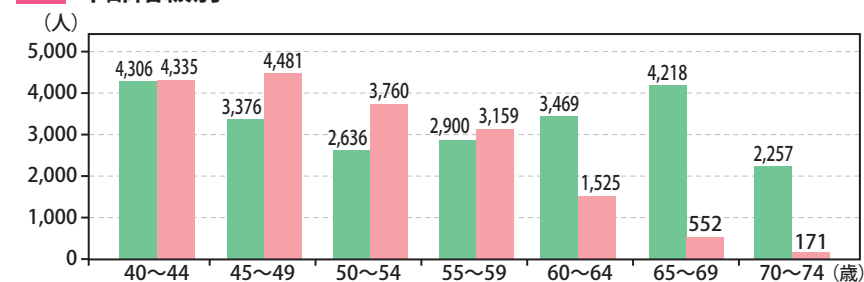
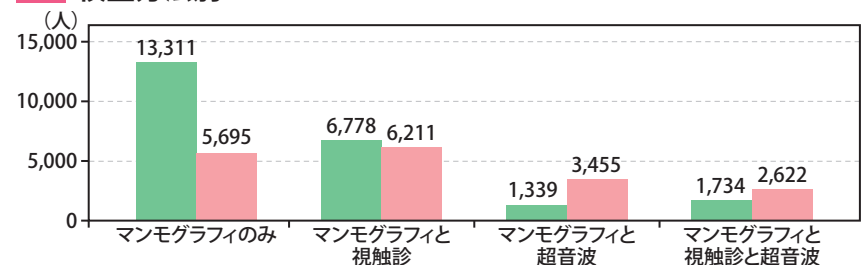
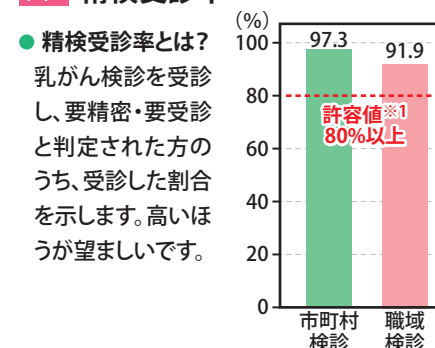


図3 検査方法別



乳がん検診受診後

図4 精検受診率



※1…厚生労働省が、がん検診において最低限保つ水準として設定した検診を評価するための基準

図5 乳がん発見率

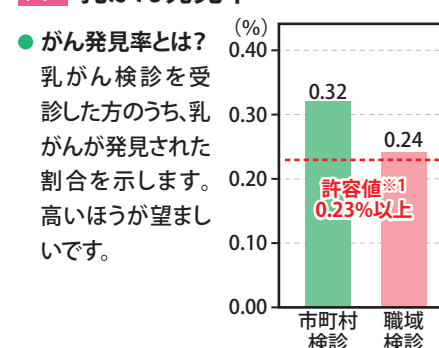
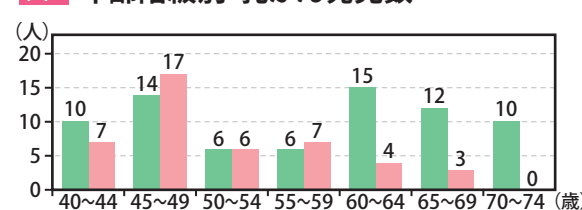


図6 年齢階級別 乳がん発見数



乳がん検診の指針（厚生労働省）
▶ 検査方法：マンモグラフィ
▶ 対象年齢：40歳以上
▶ 実施回数：2年に1回

市町村検診、職域検診ともに精検受診率および乳がん発見率が高く、国の許容値を上回っていました。図4 図5

乳がん発見率は、市町村検診と比べると、職域検診が低い傾向がみられます。これは、市町村検診では60歳以降の年代からも乳がんが多く発見されていることが考えられます。図6

職域検診を利用されている方は、定年退職後も引き続き、お住まいの市町村でがん検診を受けるようにしましょう。

乳がんは、早期発見して治療すれば90%以上が治るといわれています。早期発見のためには、定期的に乳がん検診を受診することが大切です。そして精密検査が必要と判断された場合には、放置せず必ず受診しましょう。



聖隷健康サポートセンター Shizuoka ～10周年を迎えました～

聖隷健康サポートセンター Shizuoka は、地域の皆様に支えられて10周年を迎えることができました。
今後も総合保健施設として、地域の皆様の健康管理のお役に立てるよう、取り組んでまいります。

聖隷健康サポートセンター Shizuoka 経営事務課 係長 石塚 貴幸



2010年 聖隷健康サポートセンター Shizuoka 開設

- MRIやCTなど、先端医療機器を設置しました。
- 女性に安心してご受診いただけるよう、女性専用の検査はレディースフロアで実施しています。

日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定

2012年 日本脳ドック学会 施設認定

2013年 聖隷静岡健診クリニック 統合

- 定期健康診断・婦人科検診などを実施しており、交通の利便性が高い施設（JR静岡駅南口から徒歩1分）です。

ISO/IEC27001:2005(情報セキュリティマネジメントシステム) 認証取得

2014年 プレミアムドック開始

検診車による巡回健診事業開始

2015年 職業性ストレスチェック開始

2016年 宿泊ドック開始

全国労働衛生団体連合会労働衛生機関評価認定

2017年 大腸CT検査開始

2018年 乳房トモシンセシス(3Dマンモグラフィ)検査開始

2019年 「聖隷健康サポートの会」発足

10th
Anniversary

2020年 その先へ